

教育的価値	具体の項目	教育課程
2 【かかわる】	<p>⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域の社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々へのありがたさを実感する。</p>	総合的な学習の時間

【題材】

6年総合的な学習の時間「緑の高原に生きる」

この単元は、地域で活躍する方々の生き方や考え方を知ることを通して、地域の中で人とかかわりながら自分らしく生きることの大切さやすばらしさに気づき、「これからの自分」の生き方を考え、実践していこうとする態度を育てることをねらいとする。

そこで、復興教育において、本校の重点項目の1つとして取り上げている「仲間や地域の人々とのつながり」を総合的な学習の時間「緑の高原に生きる」と関連づけ、講師の方々のお話を聞く活動を通して、人の絆の大切さ・地域の方々のありがたさを実感させたいと考える。

【実践の概要・詳細】



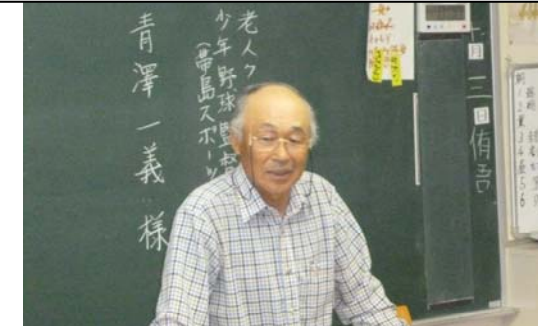
パン職人である秋山陽子さんは、家庭を持ちながら仕事をしてきた方です。たくさん苦勞があったようです。コミュニケーションの大切さ・売上げを上げるための工夫など経験に基づいたお話をしてくれました。



住職である齋藤恵践さんは、ある話し合いで人と意見が食い違った時、自分の意見を貫き通して分かってもらったそうです。人の考えを「いいですね」と何回も言っていたら、信用がなくなってしまうとおっしゃっていました。



スポ少のコーチである砂善克さんは、素直な気持ちで積極的に取り組んでほしいと話されました。困難な壁にぶつかっても、それを乗り越えた時大きく成長し喜びとなるので、乗り越える力をつけてほしいと話されました。



スポ少の監督である青澤一義さんは、苦手なことができるようになることが大事だというお話をされました。家でも、学校でも規則や勉強がきちんとできれば中学校でも通用するから、素直に受け入れて頑張してほしいと話されました。



元大野村村長の佐々木祥吉さんは、水道のなく井戸水を使っていた時代に、村人の幸せのためにダムを建設された方です。いつでも、周りのことを考え役に立つものはないかと考え続けながら仕事をされました。



社会福祉協議会で働いている青澤学さんは、何の仕事でもごまかさないで楽しみを見つけながら一生懸命仕事をする事、命は1つしかないで今を一生懸命生きることが大切だと話されました。

【授業の展開】 わくわく発表会の様子（総合的な学習の時間での発表）



「齋藤恵践さん・佐々木祥吉さんから学ぶ」の発表です。講師の紹介や思い・考え方、最後に学んだことを紙芝居風に書きまとめました。常に前向きに考える齋藤さん、みんなの幸せを願っている佐々木さん。子ども達は、お二人の生き方に強く心を打たれていました。

「砂善克さん・青澤学さんから学ぶ」の発表です。講師の紹介や思い・考え方、最後に学んだことを模造紙に見やすく書きまとめました。困難を乗り越えてきた砂さん、今を一生懸命生きている青澤さん。子ども達は、お二人の生き方に力強さを感じていたようです。



「秋山陽子さん、青澤一義さんから学ぶ」の発表です。講師の紹介や思い・考え方、最後に学んだことを紙芝居風に書きまとめました。素直な気持ちで努力し続ける青澤さん、人づきあいを大切にしている秋山さん。自分の生活を見直すよい機会となったようです。

<児童の感想>

・講師の方のお話を聞いて、働くことについて考えるようになりました。自分の考えをもち、夢や目標をもって生活したいです。地域で活躍する方のお話を聞くという学習で学んだことをこれからの生活に生かしたいです。

（6年男子）

・これまで「働く」ということをよく分かっていませんでした。講師の方のお話をきいていくうちに、働くことは確かに大変だけれど、だからこそ見つけられることがあるんだなと思いました。働くことや楽しみや喜びです。仕事という形ではないけれど、いろいろな活動の中で、楽しみを見つけたいです。こう考えさせられたのは、講師の方のおかげです。感謝しています。

（6年女子）

・講師の方のお話を聞くまでは、人との出会いを大切にしていなかったけれど、これからは少しずつでも大切にしていき、大人になってもできるようにしたいです。

（6年男子）

・お話を聞く前は、生きること・働くことの意味が分からなかったけれど、今は、人生は辛いこともあるけれど楽しいことの方が多いと思いました。

（6年男子）

・初めは自分のためだけに働いているのだと思いました。お話を聞いてみると、他の人のために働いているのだと思うようになりました。ぼくが積極的になれたのは、6人の講師の方のおかげです。ありがとうございました。

（6年男子）

<まとめ>

11月に行ったわくわく発表会には、講師の方を始め、保護者の皆様が参観されました。5,6年生の児童は、互いに発表を聞き合い、交流を深めました。

総合的な学習の時間で行った地域の方々にお話を聞く活動を、復興教育の視点で関連づけ、ねらいに迫ることを試みました。子ども達の感想にもあるように、地域の方々のお話を聞いて学んだたくさんのことが、これからの子ども達の成長につながっていくことを確信しました。

<地域の方の感想>

教室で子ども達に直接話すと、こちらが元気をもらうような気持ちになる。子ども達の幸せを願うとともに、大野・洋野を大切に思い、帯島で育ったことを誇りに思えるようであって欲しい。そのために、今後の子ども達の成長を見守りたい。

